

<評価> A：充実した取組を行った B：通常通りの取組を行った C：取り組んでいるが不十分である

推進目標 5 多様な“困りごと”を包括的に支えるサービスや活動を充実する

【取組・評価の視点】

- ①「公」のサービスの内容や提供体制を充実する ②地域の多様な力を活かした活動を推進する ③新たなニーズや狭間のニーズなどに対応する ④担い手を増やす・支援する
- ⑤多様な主体や分野を超えた協働を進める ⑥複雑な課題を解決する取組を進める ⑦効果的で適正な情報共有を進める ⑧自立を支援するサービスや活動を進める ⑨担い手の意識やスキルを高める
- ⑩利用者や第三者の意見を活かす

(8) 分野別計画を地域福祉の視点で推進します ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携し、保健福祉センターの管理運営に取り組んでいる。相談窓口やエントランス事業をはじめ、地域福祉の拠点として機能の強化に努めている。(①) ・保健福祉センター内水浴訓練室で、障がい・ぜんそく症状のある子どもの訓練事業、高齢者の介護予防事業や障がいのある人・障がいのある子ども・ぜんそく症状のある子ども・高齢者の開放事業を実施している。(①, ⑧) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>保健福祉センター内水浴訓練室での事業において、安全に運営できるよう、ヒヤリハット報告を毎月もらうようにして、安全意識の継続を図った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>地域福祉の拠点として今後も継続して管理運営を行い、安全面での意識の継続を図るよう努める。</p>
障害福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 障がい福祉サービス提供事業所間の横の連携を強化するため、「芦屋市障がい児者福祉事業所連絡会」を設置した。(②, ⑤, ⑨) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>障がい福祉サービスを提供している市内の全事業所に連絡会の参加を呼び掛けた。連絡会における取組内容については、行政が決めるのではなく、連絡会に参加した方で決めてもらった。(②, ⑤, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>意見の中で、研修等人材育成について事業所間で連携を図っていきたいという意見があったため、市内事業所で実施されている研修会の情報提供等に取り組んでいきたい。</p>
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> 第8次芦屋すこやか長寿プラン21について、地域の様々な福祉関係者等から地域福祉の視点も踏まえた評価を受けながら推進している。(①) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <p>第8次芦屋すこやか長寿プラン21評価委員会を開催し、高齢者を地域で支えるための施策が計画に沿って実施できているか評価を行った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <p>引き続き計画に記載する、高齢者を地域で支えるための施策の進捗状況について評価していく。</p>
子育て推進課	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期子育て未来応援プラン「あしや」の策定に向けて教育・保育・子育て支援に関する各施策の今後の取組を検討するため、市民にアンケート調査を実施した。(①, ③, ⑩) ・子育て未来応援プラン「あしや」(子ども・子育て支援事業計画)の関係事業所管課へ前年度の事業取組実績の照会を行い、結果を取りまとめて子ども・子育て会議において報告し、計画の進行管理を行った。(①, ③, ⑩) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民へのアンケート調査実施のため、委託業者と複数回に亘り連絡調整を行って設問内容案を精査し、子ども・子育て会議で諮った。(①, ③, ⑩) ・前年度の子ども・子育て会議での委員意見を踏まえ、評価方法の見直しを行い、関係事業所管課において各事業を量的観点と質的観点に分けて評価した。(①, ⑦, ⑩) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期子育て未来応援プラン「あしや」の骨子案を作成し、パブリックコメントを実施して策定を行う。 ・各事業の「量的評価」と「質的評価」の記載方法にばらつきがあるため、全体の統一を図り、より第三者にわかりやすい表記となるよう努める。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
健康課	第3次健康増進・食育推進計画を策定し、平成30年度は初年度となるため、周知啓発に努めた。(⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 市ホームページや全戸配布の「保健センターだより」などを活用し、効果的に計画を周知啓発した。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 平成30年度は周知啓発が主だったので、計画の目標が達成できるよう実践に結びつくような取組が必要。</p>
市民参画課	市民参画協働推進計画において、人材の発掘、協働の取組の推進などを掲げている。(②, ④, ⑤, ⑧, ⑨)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 あしや市民活動センターの改修に伴い、芦屋まちデザインラボとして連続ゼミを開催し、デザインという切り口から市民活動を考えるワークショップを行った。情報発信の際には、新たな人材の発掘を念頭に置いたチラシ・ポスターを作成したほか、連続ゼミの内容を発信するニュースレターを発行した。(②, ④, ⑤, ⑧, ⑨)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 人材の発掘を少しずつ進めてきたので、その後のフォローを次年度も継続していき、計画の策定にも反映していきたい。</p>
男女共同参画推進課	女性に対する暴力をなくす運動等街頭啓発キャンペーンを継続して実施した。市内で活動している団体などと協力し、啓発グッズの配布を行い、女性に対する暴力をなくすための啓発を推進した。(②)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 啓発グッズの内容を精査し、相談カードの配布枚数を減らした。(②)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 啓発グッズの配布だけで啓発の効果があるのか不明である。</p>
地域経済振興課	平成29年に策定した消費者教育推進計画に基づき、自立した消費者及び地域の消費者力向上に向け、消費生活サポーター講座の実施や、出前講座、消費生活セミナーを実施し、地域での見守りのポイントや流行のトラブル等について啓発した。(①, ⑧)	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】 流行の手口は日々変化するため、出前講座やセミナーを通じて、常に最新情報の提供を行った。(①)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 適切な相談窓口や支援につながるよう、イベントやセミナー、広報等により、消費生活センターについて周知を行う。</p>
収集事業課	「芦屋市さわやか収集実施要綱」に基づき、利用者の増加に対応しながら、個別のごみ出し支援を継続実施している。また、利用者増加を見据えた収集実施体制の構築及び福祉施策との連携スキームについて検討している。(①, ⑤)	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】 福祉部局と、「ひとり役運動」との連携に向けた情報交換及び協議を行った。(⑤)</p> <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 利用者増加に対応しながら、更なるニーズ増加に備えて、収集班体制の組替・拡充やひとり役運動の進捗を踏まえての連携を試行導入するなど、長期的に安定した事業継続ができる収集体制について引き続き検討する。</p>

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
公園緑地課	・公園遊具の安全点検に基づいて適宜補修等を行うと共に、施設と樹木を一体的に管理することにより、園内全体をバランスよく管理できるように体制を整えた。(①) ・西浜公園のトイレ、前田公園の園路のバリアフリー化を実施している。(④)	B	【今年度工夫・努力したこと】 ・施設と樹木の管理については、これまで市内全体の管理を施設と樹木に分けて別々の担当者が管理していた。しかし今年度途中からは、エリアごとに担当者を分けて、同一公園内の施設と樹木は同じ担当者が管理するよう体制を変更することにより、市民にとって分かりやすく、また園内の調和を図ることができる体制を整えた。(①) ・園路のバリアフリー化に関しては、滑りにくさや歩きやすさを確保するため、舗装材について比較検証を行った。(④)
防災安全課	地域防災計画において、住民による地区防災計画の策定の支援（策定済3町）(②, ⑨)	B	【今年度工夫・努力したこと】 防災マップづくりや災害を想定した図上訓練などを行い、地域における多様な意見を参加者で共有した。(②, ③)
青少年 愛護センター	子ども・若者育成支援の枠組みと困難を有する若者を支援するネットワーク整備を図る「芦屋市子ども・若者計画」が平成31年度末をもって終期を迎える。本年度は次期の「子ども・若者計画」策定のための基礎的データとなる市民アンケート調査に着手した。(15～39歳の無作為抽出3,000人対象) (③, ⑥)	B	【今年度工夫・努力したこと】 アンケート設計において ・実際にひきこもり群を調査によって実態把握することは困難であるので、ひきこもり状態ではないものの、ひきこもり状態と同じ意識傾向をもっている人をひきこもり親和群として分析することで、ある程度ひきこもりの傾向がつかめることを意図した。(③) ・「子ども・若者計画」の目指すところを分かりやすくまとめた「子ども・若者健全育成育成に向けての提言」(H28.1)の趣旨が反映できる設問を盛り込んだ。(①, ⑦)
			【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 次年度に次期「子ども・若者計画」を策定する。

(10) 担い手の意識やスキルを高める取組を充実します ★

所管課	平成30年度取組	評価	評価の理由
地域福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・第2次芦屋市地域福祉計画策定の過程で発足されたプロジェクトを地域福祉アクションプログラム推進協議会で取り組むプロジェクトとして位置付け、市民、行政、社協が協働で会議やイベントの開催や情報発信の方法の検討について協議を行うなど、活動を行っている。(②, ④, ⑨) ・保健福祉フェアに参加し、「人と人とのつながり」をテーマに、つながりのある地域を創るために活動を行っている団体の取組を発表していただき、表彰を行う「地域福祉アクションアワードvol.4」を開催した。(②, ⑤, ⑨) ・介護予防・日常生活支援総合事業の生活支援型訪問サービスの従事者研修を2回実施し(12月末時点)、23人(12月末時点)の生活支援の担い手の養成・確保に取り組んだ。(④, ⑨) ・権利擁護支援者養成研修を実施し(19名受講, 2月23日修了), 権利擁護支援の担い手の養成・確保, 権利擁護意識の醸成に取り組んだ。(④, ⑨) ・「介護相談員」として活動している43名の相談員が市内14か所の施設に訪問し, 利用者からの相談に応じている。また, 平成30年度から障がい者施設等への相談員派遣を試行実施し, 8名の相談員が3か所の施設に訪問している。(④, ⑨, ⑩) ・「介護相談員」がスキルアップ研修に参加し, 自己研鑽に努めている。(⑨) 	B	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援型訪問サービス従事者研修のチラシを各集会所で配架していただき, 周知に努めた。(④, ⑨) ・新規の取組である, 障がい者施設等相談員派遣事業の実施に向けて, 障がいを理解するための研修, 障がい者施設従事者への事業理解への働きかけを実施(④, ⑨, ⑩) ・今まで参加したことのない地域のイベントはその町の雰囲気を楽しむことができ, 新たな発見があったりするので, 地域福祉アクションプログラム推進協議会PRの目的も含め, 高浜町まちびらきイベントに参加した。(⑨) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事や親の介護, 高齢化等により, 民生委員・児童委員のなり手が不足しており, 7人の欠員が生じている。(浜芦屋町, 平田北町, 南浜町については1人も民生委員がいない状態) ・地域福祉アクションプログラム推進協議会の構成員が固定化しているため, 人材の発掘が必要 ・生活支援型訪問サービス従事者研修の受講者の増加 ・障がい者施設等相談員派遣事業の定着に向けた継続的な研修, 働きかけ等の実施
生活援護課	<ul style="list-style-type: none"> ・就労支援員を専門職として採用した。(④) ・職員の資質の向上を図るため, 他法他施策について学びあっている。(⑨) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員が社会福祉主事資格を取得するため1年間に及ぶ研修を受講した。(⑨) ・就労支援員が全国大会に参加し, 知識と研鑽を積んだ。(⑨) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就労による生活保護自立の実績を伸ばす。 ・課内での勉強会, 他部署と関わる研修会に積極的に参加する。 ・福祉分野のみならず多方面にアンテナを張り巡らす。
高齢介護課	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービス事業者の評価の結果等を市民が活用できるよう, 市のHPの改修や運営推進会議での情報発信といった取組を継続実施した。(①, ⑦) ・地域のケアマネジメント力向上に市内の主任ケアマネジャーと連携して取り組んだ。(②, ③, ⑤, ⑦, ⑨) ・65歳到達時に, 障がい福祉サービスから介護保険サービスへの円滑な移行を図るためのシステムづくりの検討を実施(⑥) 	A	<p>【今年度工夫・努力したこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活援助の回数の多い利用者にかかる居宅介護支援計画について, 市内の主任ケアマネジャーを含む多職種と連携して検討する地域ケア会議を試行している。(②, ⑤, ⑥, ⑦, ⑨) ・市内30カ所を超える地域密着型サービス事業所において, 各事業所の運営状況に関する評価の結果や今後の運営方針等について, 地域住民の方々と共に検証する運営推進会議に, 年間100回以上参加している。(⑤, ⑦, ⑩) <p>【残っている課題・次年度取り組みたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試行している地域ケア会議等から把握できる地域課題を踏まえ, 芦屋市のケアマネジメントに関する基本方針を伝えるためのガイドラインを作成する。 ・65歳問題プロジェクト会議では, 引き続き, 円滑な移行を図るためのシステムづくりを検討する。

所管課	平成30年度の取組	評価	評価の理由
上宮川文化センター	・健康講演会，栄養改善講習会の実施（④，⑨） ・子育て支援事業の実施（④，⑨） ・公共職業安定所（ハローワーク西宮）と連携して，求人情報の提供や職業紹介・職業相談といった就労支援を行っている。（④，⑨） ・多様なニーズに的確に対応できるよう，市役所の相談窓口等や相談支援機関の連携を行っている。（④，⑨） ・個別支援については，各課，関係機関と連携し，必要に応じて，介護や障がいのサービスの提供を含め，協働で取り組んでいる。（④，⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 地域見守り会での会議等様々な機会を通じて発信している。（①～⑩） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 複合支援ニーズを抱えた世帯の支援を迅速，円滑に行うために，各課，関係機関とのさらなる協働を推進
建設総務課	防犯グループより，担い手（特に若い世代）が不足していることを受けて，会議で話し合いを実施（⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 青少年育成愛護委員など他団体との交流の場を設け，情報を共有した。（⑨） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 若い世代が中心となって活動している涼風町の事例を，平成31年度開催予定の会議で報告していただく予定
防災安全課	情報収集や避難行動の必要性について，支援者に防災訓練や出前講座を通じて啓発（⑨）	B	【今年度工夫・努力したこと】 参加者に対して一方的な内容ではなく，一人一人が災害時の状況について具体的なイメージをもてるように映像などを用いて啓発した。（⑨） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 ・要配慮者名簿の受領推進（82団体中29団体受領済） ・要配慮者および支援者のつながりの強化
青少年愛護センター	新規の育成愛護委員を対象に芦屋市内の街並みや巡回事情などを紹介することを目的とした研修会「市内合同バス巡回」を実施した。（6月29日，54人参加）（④，⑦）	B	【今年度工夫・努力したこと】 市内を視察するときに，青少年愛護センター職員だけでなく該当地区の育成愛護委員が互いに地域の説明を行ったこと。（④，⑦） 【残っている課題・次年度取り組みたいこと】 地域の情報はやはり該当地域の愛護委員がいち早く把握しているため，相互の情報交換・共有の場をつくる。